

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100934		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	〒038-2201 青森県西津軽郡深浦町沢辺字吉花102番地27		
自己評価作成日	平成25年7月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白神山地や日本海の大自然に囲まれ、静かで心の落ち着く場所となっている。生きがいや楽しみなど利用者個々の自己実現への取組をととも大事にしており、居宅で生活してきた生き方や馴染みの人との繋がりを継続できるような環境作りへの配慮も行っている。また、職員と一緒に料理や行事を多く行っており、信頼関係を築きながら安心して暮らせる様にと配慮している。地域との関係性の重要さも考慮しており、お互いがいい関係で支え合えるように、透明感を強く持ち、地域から受け入れやすい施設となれるように努めている。サービスの質向上へと、職員個々に年間目標を設定し、研修会にも積極的に参加している。また、都度評価をしながら職員個々のスキルアップへと力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

地域との係りを積極的に行い、コミュニティーセンターの生き生き教室に利用者さんと参加したり、買物や地域の行事など外出する機会も多く、グループホームの中だけにとどまらず、地域の中で安心して楽しみながら生きがいのある生活ができる。また、職員一人一人が個人目標を持ち、内部や外部の研修会にも積極的に参加をし、自己の向上とより良いケアの提供を目指しており、利用者さんも家族も安心して暮らせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの役割を捉え実践に繋げるようにと年度計画や広報に明記したり、施設内に掲示し、目に触れ意識向上出来る様にしている。また、会議などで理念を共有し、実践に繋げていけるように話し合いを行いながら日々取り組んでいる。	全職員が理念を共有し、日々の実践につなげられるように、月1回の職員会議で理念の意義や目的を話している。また理念は地域との交流を大切にしたい内容であり、玄関や事務所等に理念を掲示し、いつでも振り返りができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事への参加や地域資源を活用したり、利用者個々の繋がりが施設入所後も継続して出来る様、関係者との連携をとりながら交流に努めている。	町の祭りや、地域のコミュニティセンターで行われている生き生き教室に利用者さんと参加したり、地域の踊りやカラオケ等の慰問があったり、積極的に交流を図っている。また地域住民を対象にした介護体験学習も行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一般の方を対象に当福祉施設の体験学習を行ったり、地域の行事や、小・中学校のイベント、園児との交流などを通し、認知症の人への理解や支援方法を地域の人々に向け活かせるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での事業報告や利用者やサービスの実際の報告、話し合いを行っており、意見やアドバイスが合った場合も、次の会議で実践状況を報告し、今後のサービス向上に活かせる様に取り組んでいる。	事業報告や行事の取り組み状況、苦情・意見報告を行って積極的に意見交換が行われている。会議後は資料にまとめ職員に回覧し、また家族には送付し情報の共有に努め、今後のサービス向上に活かせるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課担当者と定期的にEメールなどを活用し、連絡や相談を行ったり、運営推進会議や地域連絡会議などを通して役場職員と定期的に実情サービスについての話し合いや相談を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	福祉課担当者とEメールでやり取りをしているが、必要に応じて直接出向いたり、運営推進会議や地域連絡会議、電話を通して連絡や相談、状況報告をすることもあり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修機会定期的を作り、全職員対象に研修を実施している。また、身体拘束しないケアへの取組みに向け、無断外出願望のある利用者などに対しても、施錠をせず、無断外出をしても見守りや付き添いを行い。また、しなくてもいいような環境作りをし、軽減に努めている。	身体拘束の内部研修会を行う他に、マニュアルも作成されいつでも確認できるようにしている。身体拘束をしないケアに取り組んでおり、職員一人一人が理解し利用者の対応や環境づくりに配慮しながら、日々のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等の研修機会を作り、全職員対象に研修を実施している。また、利用者の心身の状態を注意深く観察し、虐待が見過ごされる事がないように注意を払っている。職員のストレスや精神状態、職場内での人間関係などの虐待へと繋がる不安要素への対策にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業などの権利擁護について学ぶ機会を持ち、研修に参加している。また、必要性を関係者と相談し、実際に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等関係書類の説明を利用者、家族に十分に説明し、理解、納得を図っている。また、都度不安や疑問、要望などを施設側からないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理窓口の説明を行い、意見、要望をもらえるようにしている。実際に文章が無い場合でも、普段のやり取りの中から改善が必要な物事は、意見書と捉えて明記し、運営推進会議や事業所内での掲示、報告を行っている。	苦情や意見を外部者へ表せることを入居前に重要事項で説明している他に、玄関に掲示した意見箱を設置する等して意見等が出しやすいようにしている。また、利用者さんや家族から普段の会話等から意見や要望を聞き、それを意見書としてまとめ皆で改善に向けて話し合いがされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定例会議を開き、各分野での意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者は職員個々との面談を行い、本人の要望や意見を聞く機会を設けている。話し合いの中から必要な事は反映させている。	月1回の職員会議や年2回の職員との面談で意見や提案を聞く機会があるが、それ以外でもいつでも意見・要望等があれば聞き、それを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に勤務状況の把握に努め、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。それらにより、労働時間や給与水準など、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保に努め、個々のスキルアップへの環境整備を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者との交流する機会を進めている。これにより、地域会議出席や勉強会の実施、近隣施設職員の相互訪問、研修参加による幅広い福祉関係者との交流機会を作り、サービスの質の向上へと取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の基本情報を良く理解し、今までと変わらない生活に少しでも近づけるように配慮し、環境作りに努め、職員とも徐々に不安や要望が伝えられるように、信頼関係の構築にも努め、安心して暮らせる様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者をどう一緒に支えていかを話し合い、家族からの要望や不安をしっかり捉え、一緒に解決しながら、安心して利用者を預けることが出来る様に取り組んでいる。また、常に連絡を取り、家族も離れていても、利用者の近くで見守っている様に感じて頂けるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを掲げ、今まず優先して行っていく事を、本人、家族と十分に話し合い、理解し納得した上で、安心してサービス開始が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活で個々の能力に応じ洗濯、掃除、調理などを職員と一緒にし、共同生活を共にする関係を築いている。また、個々の得意な事を活かし、活躍できる場面を配慮し、お互い支え合っている事を感じられる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の安心出来る生活を一緒に考え支えていると家族が感じられる様に、連絡ややり取りをこまめに行い、側で見守れていると感じて頂ける様に配慮し、直接でなくても間接的に一緒に物事を考え支援する機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所を捉え、施設入所後も今までの様に関係が継続出来る様に、ドライブで出掛けたり、交流が出来る様配慮した行事の考案、施設内に馴染みの理容師を招いたり、赴いたり支援に努めている。	2ヶ月に1回馴染みの理容師さんが来たり、理容店に出かけたりしている。またドライブで馴染みの場所に出かけたり、馴染みの所で買物したり、近所の方が会いに来たり関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格などを十分に把握し、利用者同士の関係性を意識しながら、関係性の悪化を引き起こさない様に席などの配置に考慮し、職員が中間に入り、意思疎通を図ったり、孤立やトラブルが無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、前利用者とその家族の関係を断ち切らず、施設探しや、申込みの代行援助、葬儀への参列など、相談や援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思いや暮らし方の希望や意向の把握を常に努め、施設で実践可能かどうかを十分協議し、本人の暮らしが有意義になれる様に努めている。	利用者さんの行動や表情・会話から、家族からは面会時に聞き、思いや意向の把握に努めている。可能な限りその思いに近づけるように皆で話し合い、日々のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、施設入所後も今までと変わらない生活を送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の心身の状態、残存能力、嗜好やその人の日課をまとめ記録に残し、携わる職員全てが把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のニーズを分析し、今優先して取りかかる事を利用者、家族、関わるスタッフで話し合い、介護計画作成に努めている。計画で立てた目標が達成出来る様に、効果や方法を常に見直し、修正しながら目標達成に努めている。	本人、家族から意向やケアのあり方について聞き、それを職員で話し合い介護計画書に反映させている。介護計画書は3ヶ月に1回見直しを行い、また状況が変わればその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫など利用者個々にアセスメント用紙として作成し、また日々の対応を個人記録に残し、スタッフが情報を共有出来る様にしている。また、実践や記録を参考に計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実状のサービス以外にも、施設で知り得たいろんな情報や経験を、利用者や家族とのやり取りの中から悩んでいる事や、いい方法を模索している話しができた場合は、お互いにアドバイス合ったり、教え合ったりもされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、それらを活用しながら暮らしを有意義で楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、利用者の馴染みのかかりつけ医を継続して利用したり、必要に応じて専門医への受診を相談しながら安心して適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医の受診を継続している。必要に応じて、本人・家族と相談しながら、往診してもらったり、専門医への受診を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での情報や気づきを看護職員に伝え相談しながら利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はその家族、病院関係者と情報交換や相談をしながら安心して治療できるように努めている。また、事前にそうした場合に備えて相談を行い協力関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や近い将来その可能性がでてきた場合は、本人、家族と話し合い、事業所でできることを説明し、相互間で話し合い方針を共有している。	重度化や終末期について早い段階で本人・家族・医師・職員で事業所ですることを十分に話し合い、方針を共有している。また終末期の対応も行っており、家族や医師との連携を図りながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員を対象に、急変や事故発生時に備えて、定期的に応急手当や初期対応の訓練や研修を行い、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え年2回の消防訓練を行ったり、定期的に災害に備えた研修を行い、全職員が災害の対応への向上がなるように努めている。	深浦町の総合訓練で地震訓練や通報訓練を行い、また年1回は火災の夜間想定避難訓練を行っている。備蓄も用意されている。	運営推進会議で町内会や民生委員に呼びかけ、一緒に避難訓練に参加してもらったり、見学してもらう等して地域との協力関係を一層築けることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けや対応を意識した取組を行っている。	個人情報内部勉強会を行い、プライバシーを損ねない対応や言葉掛けを職員が意識しながら、日々の対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表せるように場所や人を組み合わせたりし、話しやすい環境作りに努めている。また、本人の意思で物事を決め、行えるような声掛けや、方法を提示しながら自己決定が出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせた生活が送れるように、本人の思いや状態を把握し、相談しながら時間帯をずらしたり、個別の時間を作ったりし、希望にそえられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の身だしなみなどを把握し、本人の希望や要望を取り入れながら、衣服や整容を進めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の残存能力を活かし、調理、下拵え、盛り付け、配膳、後片付けを一緒に行える様に工夫し、実際に実践している。また、好みの食材や味付けを利用者と相談しながら、食事が楽しめるようにメニューに取り入れれている。	季節の食材をメニューに取り入れ、畑で収穫した野菜、近所や家族からの差し入れなどもあり、味付けや調理方法を利用者さんと話し合いながら食事を楽しめるようにしている。職員と一緒に下ごしらえや片付け、食事を行い、会話が弾み楽しい雰囲気で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の体調面や栄養状態、習慣の把握に努め、一人ひとりの食事量、水分量を確保出来る様に、毎日の記録をとりながら行っている。また、栄養面での不足があった場合は、主治医と相談しながら栄養補助食を取り入れながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の能力に応じた口腔ケアを取り入れ、口の中の汚れや臭いへの予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつの使用を減らすように、排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄を目指しながら、排泄の自立に向けた支援に努めている。	排泄表を用いて個々の排泄パターンを把握し、個々に合わせた声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解出来る様に研修などの勉強会を行い、下剤ばかりに頼らなくてもいいように、利用者個々の食事形態や、腸の改善となる飲食物の取り入れなど行いながら、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者個々の希望に合わせ、曜日や時間帯を固定せず、本人に伺いながら、本人のタイミングに合わせ、一人ひとりの入浴が楽しめ、リラックス出来る様な支援に努めている。	利用者さんの希望に合わせ、曜日や時間帯を決めず入浴を行っている。足浴や清拭等を行い、個々に合わせた対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣やその時々体調に応じて、自ら休息を行ったり、気軽に休息出来る様な声掛けに配慮をし、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の現病歴を捉え、薬の目的や副作用、用法や用量について職員間での申し送りや、処方せん、個人記録の確認を常に共有し、症状の変化や対応方法の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や楽しみ、嗜好品を理解し、本人と普段の生活に楽しみを取り入れられるように話し合い、外出や外食、趣味活動を個別に作り実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望を引き出し、馴染みの場所や普段行けないような場所への外出が出来る様に行事や予定をたて実践している。また、家族などの協力を得ながら、本人が気軽に出掛けられる様にも努めている。	買物やドライブ等、本人の希望を聞き可能な限りはそれに対応し外出の支援を行っている。家族の協力も得ながら、閉じこもらないように外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金を本人が持つことの大切さを理解しており、利用者の能力に応じて、本人や家族と話し合い、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族、友人などの関わりが今までと変わりなく継続出来るように、本人の要望に合わせ、電話でのやり取りや手紙のやり取りが本人のペースで行えれる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や好みの飾り付け、季節を感じられる装飾を取り入れ、生活感を出し居心地よく過ごせる様に工夫している。また、利用者個々に気になる色や光へのこだわりを持つ方にも、不快や混乱を招かない様に、カーテンの設置や目につかないように配慮を行っている。	共用空間にはソファが置かれ、ゆったりとくつろげる。また季節感を出す為に季節の飾りつけを行い、また空調ではエアコンや加湿器、空気清浄機があり居心地良く過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが気楽に過ごせる居場所や気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所への配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、今まで生活してきた普段使い慣れた物や好みの物を持ち込み、施設入所後も以前と変わらない生活に近づける様に、本人や家族と相談し、安心して暮らせる様に行っている。	居室は本人の使い慣れたものが持ち込まれ、個々が居心地良く過ごせるようになっていく。入居前に事前に本人や家族と相談しながら、安心して暮らせるよう工夫された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事、トイレ、洗濯、入浴、掃除等、一人で出来る事への環境作りや工夫をし、自立した生活が送れるように努めている。		